

行政視察（研修）報告書

【会派名：亀井博人】

行政視察 （研修）名		少子化対策と子育て支援について	
会派・参加者名		無会派（参加者：亀井博人）	
期 日		令和6年10月14日（月） ～ 10月15日（火）	
①	日 時	10月14日（月） 午前・ 午後 1時30分～2時40分	
	視察（研修）先	福島県喜多方市保健福祉部 こども課 めぐぷらざ/「ひとつづくり・交流拠点複合施設」アイデミきたかた （人口 41,789人、6年9月現在、面積 554.63㎥、議員定数22人）	
	調 査 項 目 及 び 内 容	調査項目	喜多方市「めぐぷらざ」の概要と見学について ～県立病院の跡地に建設～ ～東北最大級のネット遊具～ ～遊具は「運動神経が良くなる36の動作」を基準に選定～
		調査概要	令和4年、県立喜多方病院跡地に整備した屋内子どもの遊び場「めぐぷらざ」オープンまでの経過と利用状況、管理運営及び施設見学を目的とした。 オープンまで 1. 整備計画(概要)について 2. 事業費、財源、主管課等 3. 管理運営の主体、費用、職員数、駐車台数等 オープン後 4. 入館者数の推移、見込みとの差 5. 遊具(ネット遊具隙間クッション設置工事) （喜多方議会だより54号6頁） 6. 施設運営上の課題 ※子育て支援にどのような良い影響があるか？ 説明者 喜多方市健康福祉部ひとつづくり・交流拠点複合施設 （企画担当）五十風祐子施設長、鈴木宏康主査
		質 疑 意見交換 所 感	【質疑・意見交換】 施設は令和4年4月オープン。利用者は2年2カ月で10万人を超え、視察当日も1回当たり定員75名（保護者除く75分間利用、広域圏は無料）の利用者でにぎわっていた。

		施設は県立喜多方病院の跡地に建設され、第二期として令和9年には同敷地内に図書館を建設予定とのこと。複合施設で地元医師会が運営する准看護高等専修学校等6施設も併設されていた。学生数は1、2年合わせて15名とのこと。 1. 整備計画(概要)について 平成25年旧県立病院の閉院に伴い、跡地利用について、平成30年度には、市民から提案を募集し4回のワークショップを実施。「跡地整備基本構想」を策定。 施設の設計は茨城県の業者。基本設計、管理運営計画、施設条例制定等を整理し、令和4年4月施設オープンし現在に至る。 2. 事業費約17億円、 財源は、地方創生拠点整備交付金約9億円等。 オープンまで主管課は企画調整課、管理運営はこども課。 3. 管理運営は、直営とプロポーザルによる民間業者。 市職員等5名とプレイリーダーとよばれる7～8名の委託業者の職員が担当、施設運営管理運営費は令和4～6年度は毎年約7千万円。駐車台数176台。 4. 入館者数の見込みは年間約3万7千人。 実績は年間約4万7千人。見込みを1万人上回る入館者数。2年2カ月で10万人の入館者数を数えた。 5. 遊具関係(ネット遊具隙間クッション設置工事等) 遊具は幼少期に身に着きたい「運動神経が良くなる36の動作」を基準に選定。遊具の設置費用は約1.6億円。3階まで吹き抜けの空間に東北最大級のネット遊具あり。室内に砂場があり、小学生以下と保護者対象であった。 6. 子育てへの影響として、天候に左右されない遊び場、遊びの中で子どもの健康と想像力を養う、親子間、子ども同士、祖父母世代間の交流を促進、子育て団体との連携を促進して切れ目のない子育て支援ができると、喜多方市では分析している。 【所感】 構想策定段階で「わくわくする子育て」に向け市民参加のワークショップが開催された。隣接地には宅地分譲宅地があり住
--	--	--

			宅建設も進んでいた。屋内子ども遊び場等は喜多方市の子育て支援のシンボル施設となっているようです。 新しい子育て施設は白紙の状態ですが、コンパクトシティを目指す本市において、昨年 10 月新築移転した県立新庄病院(若葉町、面積約 2 ha)の跡地が良いと考え 9 月定例会でも質問しました。本市の魅力を高め、市民要望が高い施設整備に取り組んでいただきたい。 本市のまちの子育てステーション「わらすこ広場」は平成 12 年にオープンし、北本町の 5 階建てビルの 4 階ワンフロアにあります。駐車場の狭さや全体的な老朽化、年間約 2,000 万円と安くはない賃借料などから、新たな場所で新しい施設を望む声は以前からあります。 子どもの遊び場については、政策提言や一般質問でも取り上げられています。県立新庄病院跡地は県有地ではありますが、土地は一点しかなく早期の方針決定が望まれます。子育て支援にシャワー効果となりうる「子どもの遊び場」について、早期実現の要望を継続したいと思います。
②	日 時	10 月 15 日(火) <u>午前</u> ・午後 9 時 15 分～10 時 30 分	
	視察(研修)先	福島県喜多方市役所 保健福祉部こども課 (人口 41,789 人、6 年 9 月現在、面積 554.63 km ² 、議員定数 22 人)	
	調 査 項 目 及 び 内 容	調査項目	少子化対策と子育て支援について
		調査概要	前日の子どもの遊び場を管理運営する喜多方市子ども課に少子化対策と子育て支援について聞き取りをした。 - 喜多方市「世話やき人」の登録者数と成果は？ 喜多方市「新婚新生活支援事業」の申請件数は？ - 不妊治療 (喜多方市議会だより 50 号 12 頁) 公的負担 3 割の適用対象となり、事業所に対する国の助成制度の周知はどのように実施しましたか？ - 子育て住宅 (同 51 号 7 頁) 子育て住宅は、いつから、何棟、何世帯分ありますか？ - 子育て経済支援の充実、午睡チェック(51 号 10 頁) 主な経済支援と効果的な事業は？ ボタン式センサーの価格、配置基準は？ - 市内で出産できる病院がなくなった(同 52 号 18 頁) 出産時はどこに、喜多方市から何キロ位ありますか？

			6. 少子化による民間の保育園・幼稚園(54号10頁) 20施設の内、利用定員を下回ったのは14施設とありますが、公立こども園は何カ所あり、その定員は何人ですか？段階的な縮小は必要ですか、開始予定は？ 説明者 こども課 赤城明美課長補佐、田中和美課長補佐
		質 疑 意 見 交 換 所 感	【質疑・意見交換】 前日視察した子ども遊び場「めぐぷらざ」を管理運営する喜多方市子ども課にお願いし、少子化対策と子育て支援について質疑を行った。喜多方市議会だよりも参考とした。 1. 喜多方市「世話やき人」の登録者数8名、結婚希望者38名。平成28年の開始以来成婚は3組、内1組にお子さんが誕生。新規事業「新婚新生活支援事業」では、住宅の取得費用、リフォーム費用、引っ越し費用に補助があるが、申請準備の件数6件は、いずれも賃貸住宅の費用とのこと。 2. 不妊治療について、公的負担3割の適用対象となり、事業所に対する国の助成制度の周知は、広報HP等で実施。 3. 子育て住宅は2ヶ所2棟7世帯分があり、平成31年と令和6年に入居を開始している。 4. 小学校入学祝い金として児童一人5万円を支給。給食費については、半額補助を実施。 5分ごとの午睡チェックは、ボタン式センサーを購入予定だったが、保育士自らが継続して行っているとのこと。 5. 市内で出産できる病院がなくなった理由は、喜多方市内に5つの病院、医院、助産所があったものの、医師の高齢化及び助産師の退職などにより市内での出産はできなくなったとのこと。現在、約20キロ離れた会津若松市内の総合病院2カ所でお産となっている。 6. 少子化による民間の保育園・幼稚園(54号10頁) 民間の保育施設20カ所定員902人(定員割れは14施設)、公立こども園10カ所定員685人(定員割れは9施設)。 民間の入所率は92%、公立は68%。令和6年5月に公立こど

		も園の今後のあり方について検討会を設置し、定員の見直し等 含め検討を開始。令和 7 年 10 月、市民に周知予定とのこと。 【所感】 子育て支援については、本市とほぼ同様の施策であった。 喜多方市では結婚に際し「世話やき人」という制度があり、 現在の登録者数 8 名、結婚希望者 38 名。平成 28 年の開始以来 成婚は 3 組、内 1 組に子どもが誕生とのこと。 新規事業「新婚新生活支援事業」は住宅に要する費用への補 助となっている。出産できる病院が喜多方市内になくなり、約 20 キロ離れた会津若松市の 2 つの民間総合病院まで行く必要が あり、県立新庄病院のありがたさを感じた。 少子化対策に特効薬はないと思われる。結婚～出産～子育て という一連の流れを支援するより効果的な事業・支援が必要で あり、人口減少対策として重要性は高まっていると感じる。
--	--	---

写真等 1



東北最大級のネット遊具



喜多方市・めぐぶらざ/「ひとづくり・交流拠点複
合施設」アイデミきたかた（屋内子どもの遊び場）

写真等 2




会議室・議場(喜多方市役所)